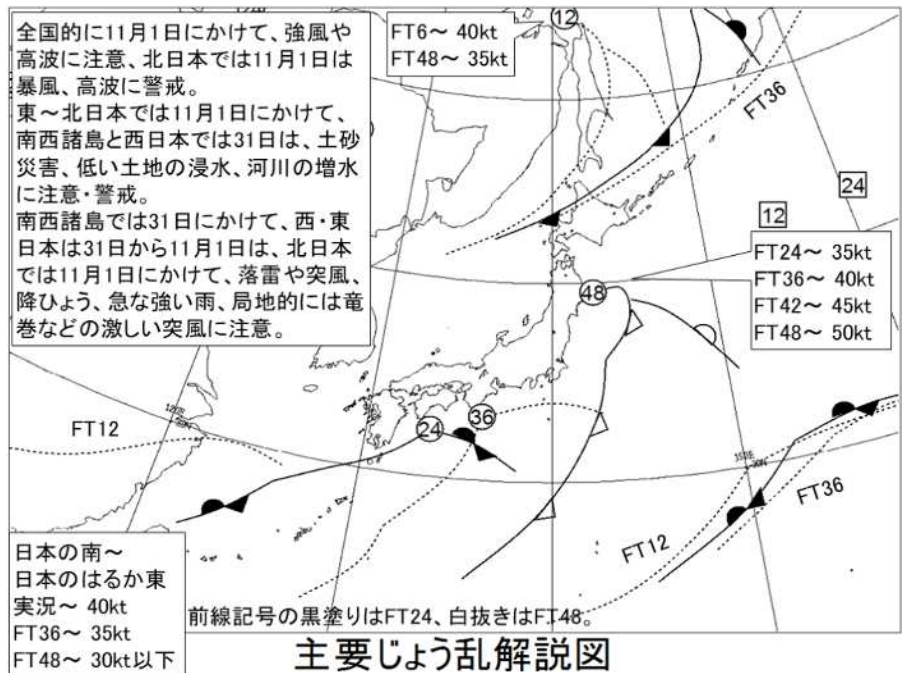


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5760～5820m付近のトラフが日本の東～小笠原近海を東進。伊豆諸島～紀伊半島沖にかけてのシアーラインは南下傾向。その北側の下層雲域は西へ拡大中。次のトラフが概ね大陸東岸にあり、その東側の正渦域に対応する組織的な雲域が東シナ海で拡大中。
- ② 日本の東の高気圧に覆われ、全国的に晴れている所が多い。その西側では寒冷前線が北海道に近づいている。
- ③ 沖縄地方では②の高気圧の周辺の湿った気流の影響で曇りや雨の所がある。周辺海域では強い降水も散在。



- ④ ①のシアーライン付近、②の高気圧の周辺、②の高気圧と寒冷前線との間では、気圧の傾きが大きく、東日本太平洋側～南西諸島、北海道では、やや強い風が吹き、波が高く、しけている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 31日にかけて北海道は、到達する前線に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる。強風、高波、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、短時間強雨に注意。
- ② 500hPa 5760m付近のトラフに対応して、30日夜には華中付近で前線が顕在化。31日にかけて、1項①のシアーラインと結びついた前線が本州南岸にのび、朝までに前線上の四国の南に発生する低気圧が東海道沖に進む。この低気圧は11月1日にかけて、急速に発達しながら東・北日本太平洋側から千島近海に進む。太平洋側は前線や低気圧に向かう下層暖湿気、11月1日の日本海側は上空の寒気の影響が加わり、それぞれ大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島と西日本太平洋側は31日にかけて、西日本日本海側は1日は、東～北日本では31日～11月1日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ③ 1項④の強風や高波が31日にかけて残ることに加えて、2項②の急速に発達する低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり強い風、31日夜からは非常に強い風が吹き、波が高くなり再びしける所がある。全国的に11月1日にかけて、強風や高波に注意。北日本では、1日は暴風、高波に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、発達する低気圧に伴う下層暖湿気による降水量・分布などはMSMやLFMも参考にする。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(18時からの24時間): 四国150、九州南部120、奄美・近畿100mm。② 波浪(明日まで): 沖縄・四国・近畿・伊豆諸島・小笠原・関東・北海道4、奄美・西～北日本太平洋側3m。③ 高潮(明日まで): 東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「暴風と高波及び大雨に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。